

## 会派行政視察報告書

- 1 期 間：令和元年 12月26日（木）
- 2 視察先：外国人集住都市会議  
会 場：長野県上田市 上田東急 REI ホテル
- 3 参加者： 大川陽一 ・ 久保田俊 ・ 矢部伸幸 ・ 高藤幸偉 ・ 高田 靖  
・ 今井俊哉 ・ 板橋 明 ・ 高木 潔 ・ 松浦武志  
・ 長 正佑 ・ 松川 翼
- 4 視察事項
  - ① 基調講演 ○多言語環境で育つ子どもの家庭言語の重要性
  - ② セッション1 ○地域における日本語教育の現状と対策について
  - ③ セッション2 ○誰ひとり取り残さない共生社会の実現に向けて

## 基調講演

基調講演はトロント大学の名誉教授である中島和子先生によるものであった。中島先生はグローバル化時代において言語形成期の子どもが持つ特別な言語習得力を活かすべきだという考えを持っている。先生が云う多言語環境というのは、もし日本人が外国に移住した場合で言えば、習得する言語は日本語と教育で習う英語、そして地域の言語の3つを学ぶことになる。逆に外国人が日本に来た場合は、日本語と教育で習う英語、そして家庭で親が使う言語の3つとなり、こういった多言語の環境が素晴らしい効果があると主張していた。最近の研究結果で言えば、多言語を習得することにより世界が広がり、違った視点で物事が考えられるようになり、言葉で人を差別することがなくなるそうだ。外国人が日本に来た場合、より効果的なのは親が日本語を話せなくても、子どもが日本語を習得し通訳をしてくれるケースが多くなっているようだった。しかし、子どもも瞬時に覚えられるわけではなく、やはり時間がかかってしまう。その期間の日本語の話せない親が、日本の暮らしでどれほどのストレスを感じ苦しんでいるのか、そんなことを想像させる講演であった。

## セッション 1

セッション1としては『地域における日本語教育の現状と対策について』というタイトルでのディスカッションであった。外国人集住都市会議からは、豊田市の市長、小牧市の副市長、そして鈴鹿市の市長が出席した。省庁側からは大変多くの方が出席していて、各官庁だけでなく出入国関係の官僚も出席していて、的確な答えを出してくれていた。日本語教育分野での課題は多々存在しており、根本的に日本語教師が不足しており、日本語教育に関するボランティアも同じく不足している。そして、両方に共通しているのが高齢化である。日本語教師が不足している上に高齢化が進み、いつリタイヤしてしまうか分からない状態である。日本語教育に対して自治体からのフォローの動きも出てきているのだが、豊田市の例でみてもかなりの予算がかかってしまうのが問題点である。しかし、基調講演でもあった通り、言語形成期の子どもに対する日本語教育や外国語教育の重要性は計り知れないものである。特に太田市では、外国人の増加に伴い、外国人の子どもも増えると見込まれる。こういったところへのフォロー体制を早めに整備することが必要だと感じた。

## セッション 2

セッション2としては『誰ひとり取り残さない共生社会の実現に向けて』というタイトルで同じようにディスカッションが行われた。セッション2には外国人集住都市会議から地元である上田市長だけでなく、教育長も参加していた。また飯田市長、浜松市長も出席していたし、省庁側からは人数は少し少なくなったが、同じような面々が答えてくれた。タイトルにあるように取り残さない共生社会に向けた取り組みとしては、やはりどこの自治体も日本語教育体制の整備にチカラを入れていた。日本語教育と考えると教育現場だけと考えるが、公民館などでも推進されている。また高校生との連携を図って日本語に触れてもらう政策は高校生を中心に地域愛、地域理解、そして地域貢献につながるということで、とても素晴らしい取り組みだと感じた。

外国人集住都市会議は、去年は太田市での開催であった。その時と同様に大変多くの参加者が参加する意義のある素晴らしい会議であった。特に今回は日本語を学ぶということに注目を置いた内容であった。日本語の分からない状態で日本で暮らす苦しさを、日本人が理解してあげることが重要であると感じた。またこれから増加するであろう外国人の子どもへの日本語教育をしっかり支えることも重要である。子どもが日本語を会得すれば、その親も子どもに助けられるし子どもの個人的なところでも効果的である。国の政策では外国人の増加は間違いない未来であり、その未来に向けた政策を考えなければならないだろう。そうすると太田市でも日本語教育の分野で足りないところがある。外国人との共生の分野でも足りないところがある。その不足を埋めるためにアイデアが必要不可欠であると考えられる。外国人が住みやすい社会を作ることによって、外国人に対する不安感も解消できるであろう。これは早急な対応がなければ、外国人の増加に間に合わないかもしれない。

